

・メディア芸術という先進性

「名所教え」何もない能舞台の上に、想像上の土地の風景を出現させる。これにより、観光旅行的な楽しみが能に付加された。「夢」世阿弥は、物語を映し出すスクリーンとして、夢を活用した。世阿弥にとって夢は、過去の物語を蘇らせるためのメディアであった。そこでは自由に物語を蘇らせることができ、組み替えることもできる。

・古典文学を視覚化するヴィジュアル革命

文学作品を初めて舞台上に視覚化した。これは現在、小説がテレビドラマになったり映画化されたりするのと同じ。能には創作劇というものはほとんどない。
事務局より：紙面のスペースの都合により、申し訳ございませんが途中までの掲載とさせていただきます。続きは当日お配りした資料をご査収下さい。

12月～1月 例会スケジュールおよび卓話担当者ご案内

- 12月19日 クリスマス忘年例会 親睦・プログラム委員会
- 12月26日 クラブ定款により「休会」
- 1月 2日 クラブ定款により「休会」
- 1月 9日 クラブ新年例会(場所未定) 親睦・プログラム委員会
- 1月18日(木) 泉佐野3クラブ合同新年例会 ※1/16(火)の例会変更
於：ホテル日航関西空港1階「鶴の間」ホストクラブ：泉佐野RC
- 1月23日 フォーラム(職業奉仕部門) 奥田 皓策 君 第7回定例理事会
- 1月30日 卓話 川崎 真範 君 ※交代

ここにこ箱



昼馬 義宏 君 … 本日卓話をします。宜しくお願い致します。
奥田 皓策 君 … 結婚記念日、12月20日です。

事務局より

次回1月23日(火)例会でお配りする会報に、恒例となりました「年頭所感」を掲載する予定です。皆様の新年の抱負を事務局までメールまたはFAXでお寄せください。宜しくお願い申し上げます。

第1219回例会

ニコニコ箱 ¥ 15,000
今年度累計 ¥ 372,000

第1219回例会出席報告

総 会 員 数	16名
名 誉 会 員 数	4名
出席計算会員数	16名
出 席 席	15名
メ ー ク ア ッ プ	0名
欠 席	1名
出 席 率	93.75%
前 回 出 席 率	81.25%

☆皆出席テーブル M1、A、B

☆ビジター なし

☆メイクアップ なし

第1220回例会

2023年12月19日

関西国際空港ロータリークラブ



Jetstar/B787-8 写真提供・解説：元・住重関西施設管理(株) 片山敏彦 様

オーストラリアのジェットスター航空は、カンタス航空の子会社として設立されたLCCで、同系列会社としてシンガポールにはジェットスター・アジア、日本にはジェットスター・ジャパンがあります。ジェットスターは、現在関空～ケアンズ便をB787-8で週5往復運航していますが、2024年2月よりブリスベン便が週4往復、4月よりシドニー便が週3往復運航開始されるそうです。



次 例 会

第 1221 回
2024年 1月 9日

《夜間例会》
「クラブ新年例会」

担当： 親睦委員会
プログラム委員会

R. I. 第2640地区
関西国際空港ロータリークラブ

【事務局】

〒549-0001
大阪府泉佐野市泉州空港北1番地
ホテル日航関西空港内
TEL：072-455-4766
FAX：072-455-4767
E-mail：
kankurc@rhythm.ocn.ne.jp
例会：毎週火曜日 12：30～
ホテル日航関西空港内
『ジェットストリーム』
TEL：072-455-1111

会 長 宮内 良平
幹 事 筒井 敦子
会報委員長 古川 友治
会報委員 松本 厚志

今週のプログラム

《 夜間家族親睦例会 》
「クリスマス忘年例会」

担当：親睦委員会・プログラム委員会



今週のロータリーソング

奉仕の理想

奉仕の理想に集いし友よ
御国に捧げん我等の業
望むは世界の久遠の平和
めぐる歯車いや輝きて
永久に榮えよ
我等のロータリー

本日のメニュー

クリスマス特別メニュー



国際ロータリー2023-2024年度会長
ゴードン R. マッキナリー
2023-2024年度
国際ロータリーのテーマ
「世界に希望を生み出そう」



四つのテスト



先週例会報告

関西国際空港ロータリークラブ

第1219回例会 12月12日

会長報告

ここ最近、大谷翔平君のニュースが流れています。

彼の契約金は日本円で言うと1,000億超えだそうです。彼は一生のうち
にそれだけのお金を使えるのかな？と思いました。

ちなみに1,000億は、重さでいうと10トン位あるそうです。私など、せい
ぜい100万円の札束で喜んでるので、感覚が全然違いますね。

それと、毎日のように流れている政治資金規正法。あれもややこしいで
すね。キックバックしてもらったお金を、これだけ頂きましたと言ってお
けば問題無かったと思うんです。内緒にするから問題になるんです。安倍
派はやはりお客さんが沢山集まるのでしょうか。

さて、年末になると皆さん年賀状を書かれますと思います。

最近ではパソコンで簡単に出来たりしますが、私の家では、年末には毎年住所録を引っ張り出してき
て大変な状態になります。

そんな中、今年は「今年度で年賀状は控えさせていただきますが、今後とも末永いお付き合いを宜し
くお願い致します。」という内容のハガキが2通来ていました。それもいいかなぁ、と思いました。

しかし、私は今年も皆さんに出す予定にしています。現役の頃は、毎年300枚近く年賀状を書いてい
ました。今はせいぜい100枚程度。パソコンでパッと作って出しています。楽です。

古い友人に年賀状を出すという事は、「私はまだ元気でやっています。生きてますよ。」という証拠に
もなると思うんです。その為にも、私は今年も年賀状を出すつもりです。

会長 宮内 良平 君



幹事報告

【回覧】

◎御坊ロータリークラブ70周年ゴルフ大会ご案内

開催日時：令和6年3月20日（水・祝）

開催場所：紀南カントリークラブ

詳細の連絡が入りましたら改めてご連絡致します。

◎ica(アイカ)泉佐野地球交流協会機関誌・第335号

◎他クラブ例会情報

幹事 筒井 敦子 君



委員会報告

不二製油文化講演会のご案内

日時 令和6年2月10日(土) 午後2時～午後4時頃

場所 スターゲイトホテル関西エアポート5F クリスタルの間

内容 「認知症の方とご家族に共感を持ち、支えとなるために」

講師 高橋 明氏 浅香山病院 理事長

定員 150名(先着順)

コロナ対策の為、座席の間隔を広くします。

参加費 無料 お時間ございましたら是非ご聴講下さい。

田中 洋 君



卓話

《世阿弥の教え》

昼馬 義宏 君



・世阿弥の功績

1. 数多くの能の作品を書き遺したこと（確実視されるものだけでも50作品以上）。世阿弥が書いた作品は、今でもほぼそのままの形で上演されている。
2. 能楽論を書いたこと。その代表作が「風姿花伝」。ちなみに、少年時代の世阿弥は、大変な美少年。しかし、「芸術家」というイメージではなく、「乞食」として差別されていた。

・風姿花伝はマーケットを生き抜く戦略論

世阿弥が書き遺した約20もの能楽論、そのうち最も初期に書かれたのが「風姿花伝」。これは、世阿弥が父から受け継いだ能の奥義を子孫に伝えるために書いたもの。「風姿花伝」は、能役者にとってのみ役立つ演技論や、視野の狭い芸術論にとどまっただけではない。世阿弥は、能を語る時に世界を一つのマーケットとしてとらえ、その中でどう振る舞い、どう勝って生き残るかを語っている。つまり、「風姿花伝」は、芸術という市場をどう勝ち抜いていくかを記した戦略論でもある。

・キーワードは「関係的」

「風姿花伝」の中で世阿弥が語ることは、顧客との関係、人気との関係、組織との関係、何よりも自分自身の人生との関係、全てにわたって「関係的」。決して個人の内面にとどまることなく、能に生きる人生のあらゆる場面で、自分と周りとの関係の取り方について語りながら、不安定な世界を生き抜く術を示している。

・能はコーディネーションの芸術

能の源流は、中国から伝来した「散楽」（綱渡りや刀投げといった曲芸や、ユーモラスな物まね芸を見せる「雑技」のようなもの）。それが、日本にもともとあった滑稽な演技と融合し、平安～鎌倉時代に「猿楽」になったとされる。世阿弥も猿楽の一派である大和猿楽の出身。能は、芸能として歌、舞、物語の三つの要素を含んでいることを意味し、猿楽は「猿楽能」とも呼ばれ、田植踊りを源流とする田楽も「田楽能」と呼ばれていた。現在、「能らしさ」と私たちが感じる部分のほとんどは、様々な芸能の領域から取り入れたもの（近江猿楽から天女舞を導入したり、歌と舞を併せ持つ曲舞芸という芸能を取り入れた）。世阿弥は、異なる芸能や異なる座の芸能を新しい結合のもとにコーディネーションして、能の新しい姿をつくり出した。

父、観阿弥の時代に勢いでやってきたことを、のちの世代も踏襲できるよう、きちんとシステムに落とし込むということをした。

・時代の転換期に生きた戦略家

能が年功序列の組織から、「人気」という外部評価による組織へと変わった→人気を中心とした激しい競争社会に突入。能のパトロンが神社など宗教的なものから、貴族文化を愛好した足利将軍家へと移る。彼らの美意識や、その周りにいた文化人たちに、どうすれば能が受け入れられ、尊敬されるのかを徹底して考え抜いた。

風姿花伝には、能役者としての稽古の積み方や年の重ね方が、一つのシステムとして極めて具体的に書かれている。そこに、「才能はありのままに任せればよいのではない。才能はつくられるものだ」という世阿弥の信念が見える。

・世阿弥が起こしたイノベーション

新しい物語のシステム（「二ツ切の能」。「複式夢幻能」ともいう。）を確立した。

これは、物語が前半と後半の二つに分かれていて、後半は、前半に登場した人物の見る夢が舞台上で演じられる、という形式。

このパターンの発見により、能の量産体制が確立された。

旅の僧と、ある物語の場所と、僧が見る夢。この形式を用いれば、あらゆる物語を能のかたちに構成できる。例えば、旅の僧が奈良の石上神宮の近くへやってくれば「井筒」になり、京都の千本を舞台にすれば、藤原定家と式子内親王の愛憎を描いた「定家」という能になる。

つまり、新たにオリジナルの物語を創作しなくとも、既存の物語の舞台上に僧が訪れていけば、同じ構造の物語がどんどんできる。